

9 特異な火災事例

事例 1

炎天下にごみステーションに集積されたごみ袋内にあったカシューと言われる塗料を含んだ紙屑が太陽光により蓄熱されるとともに、酸化重合反応によって発熱し出火したものの。

塗料の中には乾燥する過程で、発熱し出火することから利用者も十分に性質を理解し取り扱うこと、また廃棄も定められた手順に従うことが重要である。



事例 2



火のついたアルコール飲料を飲んだ際に、火のついたまま口からこぼれ、衣類とテーブルの一部が焼損したものの。

このお酒はパフォーマンスの一貫としてお客に提供していたものであるが、このお酒には、火気に注意との表記があることなどから、危険な行為であったといえる。

事例 3

ラジコンヘリコプターに使用されているリチウムポリマー電池が墜落の衝撃で変形し出火に至り、河川敷の草が延焼したものの。

落下時に出火する可能性があるので、遊戯中は消火器等の消火用具を備える必要がある。

出火のことを考えると市街地での使用は非常に危険な玩具であるといえる。

